

二〇二六年度 一般入学試験問題 国語

始まりのブザーが鳴るまで問題冊子、解答用紙に手を触れずに、左記の注意事項に目を通しておくこと。

- ◎ 問題用紙は1ページから19ページまでであるので、始まりのブザーが鳴ったらすぐに確認すること。
- ◎ 最初に別紙の解答用紙に受験番号と氏名を記入してから問題を解くこと。
- ◎ 受験番号は所定の欄に記入後、それに該当するマーク欄にしっかり濃くマークすること。
- ◎ 問題は、記述問題とマーク問題の二種類がある。それぞれ所定欄に記入すること。
- ◎ とじてある問題用紙をばらばらにしたり、一部を切り取ったりしないこと。
- ◎ 終了のブザーが鳴ったら筆記用具を置くこと。
- ◎ 問題冊子は持ち帰ってもかまわない。

受験番号マーク例

良い例	●	悪い例	✓ ○ ●
-----	---	-----	-------

【四】以下の問いに答えよ。

問一 次の傍線部の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直せ。

- ① 法律を遵守する
- ② グラフの凡例を参照する
- ③ フキユウの名作に感動する
- ④ 龍はカクウの生き物だ

問二 次の傍線部のカタカナと同じ漢字はどれか。

- ① その行為は法律にテイシヨクする可能性がある **マーク** 15
 - 1 システムをテイシする
 - 2 タイテイの物事はうまくいく
 - 3 冬休みの宿題をテイシユツする
 - 4 最寄り駅までのテイキ券を購入する
 - 5 三角形のテイヘンから面積を求める
- ② 人生を変えるケイキとなった出会い **マーク** 16
 - 1 試合終了間際にケイセイが逆転する
 - 2 古いケイジ物をはがす
 - 3 落とし物をケイサツに届ける
 - 4 協力して負担をケイゲンする
 - 5 新しい家のケイヤクをする

③ コウイン矢のごとし マーク 17

1 最近発売されたインリヨウ水

2 論文をインヨウしてレポートを書く

3 父の代からのインネンが深い土地

4 退職後は田舎にインキョしたい

5 インケンなやり口は好まない

問三 次の空欄に入る漢字一字をそれぞれ記せ。

● 先生が忙しそうにしているので取り付く ① もない

● 彼の失敗を他山の ② として私も気を付けよう

● 生徒会長の座を虎 ③ 眈々と狙っている

【五】次の文章を読み、後の問に答えよ。

今は昔、天竺^①に兔・狐・猿、三つの獣有りて、共に誠の心を起こして菩薩の道を行ひけり。おのおの思はく、「我ら前世に罪障深重にしていやしき獣と生まれたり。これ前世に生有る者をあはれまず、財物を惜しみて人に与へず。かくのごとくの罪深くして地獄におちて、苦を久しく受けて残りの報にかく生まれたるなり。」^②さればこの度、この身を捨てむ」。年我より老いたるをば親のごとくに敬ひ、年我より少し進みたるをば兄のごとくにし、年我より少し劣りたるをば弟のごとくあはれみ、自らの事をば捨てて他の事を先とす。

天帝釈これを見たまひて、「これら獣の身なりといへども、有難き心なり。人の身を受けたりといへども、あるいは生きたる者を殺し、あるいは人の財を奪ひ、あるいは父母を殺し、あるいは兄弟を仇敵^{あだかたき}のごとく思ひ、あるいは笑みの内にも悪しき思ひあり、あるいは恋ひたる形にも怒れる心深し。」^③いかにいはむや、かくのごときの獣は誠の心深く思ひ難し。されば試みむ」と思して、たちまちに老いたる翁^{おきな}の無力にして疲れ術なげなる形に変じて、この三つの獣の有る所に至りたまひてのたまはく、「我年老ひ疲れてせむ方無し。汝ら三の獣、我を養ひたまへ。我子無く家貧しくして食物無し。聞けば、汝ら三の獣、あはれみの心深く有り」と。三の獣この事を聞きて言はく、「これ、我等が本の心なり。速やかに養ふべし」と言ひて、猿は木に登りて栗・柿・梨・なつめ・あけび等を取りて持て来たり、里に出ては瓜・茄子・大豆・小豆・粟等を取りて持て来たりて、好みにしたがひて食せしむ。狐は墓の辺に行きて人の祭り置きたる餅・鮑^{あはび}・鰹、種々の魚類等の取りて持て来たりて、思ひにしたがひて食せしむるに、翁既に飽満しぬ。

かくのごとくして日頃を経るに、翁の言はく、「この二つの獣はまことに深き心有りけり。」^④これ既に なりけり」と言ふに、兔は励みの心を起こして灯を取り、香を取りて、耳は高くくぐせにして、目は大きに、前の足短く、尻の穴は大きに開きて、東西南北求め歩けども、さらに求め得たる物無し。されば猿・狐と翁と、且つははづかしめ、且つは侮り笑ひて励ませども、力及ばずして、兔の思はく、「我翁を養はむが為に野山に行くといへども、野山怖ろしくわりなし。人に殺され、獣に食らはるべし。」^⑤いたづらに、心に非ず身を失ふ事はかり無し。ただしかじ、我今この身を捨てて、この翁に食らはれて永くこの生を離れむ」と思ひて、翁のもとに行きて言はく、「今我出でて、甘美の物を求めて来たらむとす。木を拾ひて火をたきて待ちたまへ」と。しからば猿は木を拾ひて来たりぬ。狐は火を取りて来たりてたきつけて、「もしや」と待つほどに、兔持つ物無くして来たり。その時に猿・狐、これを見て言はく、「汝何物をか持て

来たるらむ。これ思ひつる事なり。虚言を以て人を謀りて、木を拾はせ火をたかせて、汝火を温まむとて、あなにく」と言へば、兎、「我食物を求めて持て来たるに力無し。さればただ我が身を焼きて食らひたまふべし」と言ひて、火の中に踊り入りて焼け死にぬ。

その時に天帝釈、本の形に復して、この兎の火に入りたる形を [9] の中に移して、あまねく一切の衆生に見しめむがために、 [9] の中に籠めたまひつ。されば、 [9] の面に雲のやうなる物の有るは、この兎の火に焼けたる煙なり。また、 [9] の中に兎の有ると言ふは、この兎の形なり。万の人、 [9] を見むことにこの兎の事思ひ出づべし。

(『今昔物語集』より)

問一 — ①は現在のどの国を指すか。マーク [18]

- 1 中国
- 2 インド
- 3 日本
- 4 モンゴル
- 5 韓国

問二 — ②とはどういうことか。マーク [19]

- 1 地獄で苦しみを受けても罪を消しきれず畜生として生まれたのだから、今度は獣身する生き方をしようということ。
- 2 悪行のゆえに十分苦しんだのに今世でも獣に生まれてしまうなんて、もう生きる希望を持つことができないということ。
- 3 残酷な過去を清算するために身を粉にして働いたように、生まれ変わった後も労苦をいとわず勤勉に努めようということ。
- 4 仏道修行をしても罪深い畜生の身では地獄におちて苦しむことになるので、いつそ帰依するのをやめようかということ。

問三 — ③の意味はどれか。マーク [20]

- 1 たとえ
- 2 まるで
- 3 あえて
- 4 まして

問四

④とはどういうことか。マーク 21

- 1 年老いた翁は、私たちが手本とすべき精神を持っているということ。
- 2 いやしい翁の姿は、私たちの転生前の姿を思い出させるということ。
- 3 哀れみ深いという評判は、私たちにとって喜ばしいことだということ。
- 4 翁の申し出は、私たちがずっと願っていたことであるということ。

問五

⑤の に入る語を、傍線部より前の本文中から漢字二字で抜き出せ。

問六

⑥はどのような様子か。マーク 22

- 1 憤っている様子
- 2 警戒している様子
- 3 必死になっている様子
- 4 調子に乗っている様子

問七

⑦とはどういうことか。マーク 23

- 1 馬鹿にされて面目をつぶされても仕方のないことであるということ
- 2 不本意ながらむだ死にしまう可能性が高いだろうということ
- 3 むやみに続けても正気を失ってしまう危険性があるということ
- 4 役に立たない行動ばかりでは目的を忘れてしまいそうだということ

問八

⑧になったのは何か。本文中から抜き出せ。

問九

⑨に入る語を漢字一字で記せ。

問十

本文の内容に合うのはどれか。マーク

24

- 1 天帝釈は獣たちの心を試したが、獣たちの行動は彼を納得させるものだった。
- 2 人間は表に現れる感情と心の内が一致しないので、獣より罪深い生き物である。
- 3 天帝釈は貧しい翁をかわいそうに思い、猿・狐・兎に彼の世話をさせた。
- 4 猿と狐は兎に厳しく接することもあったが、翁だけはいつも優しくかった。